

新たな世界に 踏み出す

「将来、日本に限らず世界に繋がる仕事をしたい、とまで考えられるようになりました。」

実際に武雄市とセバストポールの市の交流活動を体験した、現在高校生の山下真以さんの言葉に、交流活動の本質が表されている。この交流の中心は、中学生を対象にホームステイ（家庭滞在）を双方で行うこと。山下さんはその体験の中で、言語や文化の壁を越えて新しい世界を発見し、まさに「国際人」として一歩を踏み出したといえるだろう。

「お互いの街で1年おきに子どもたちを家庭の一人に迎え入れる。異なる家庭で大事にされることで、寛容な国際人の心を育めるのです。」

この交流を支えてきた支援団体、たけおワールドフレンズ会長の大渡幸雄さんは、山下さんの感想に目を細めながら、その目的を語った。

武雄の子どもたちが、「世界」という目線を培うことができたのは、このユニークな国際交流の場が身近な地にあつたからこそではないか、そう素直に思えた。